市民エコ生活推進プロジェクト

平成30年度における関連する社会の出来事	低炭素社会構築プロジェクトを参照

■みんなが学び、情報を発信します！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」	平成30年度に実施したこと	環境課ヒアリング・評価
1-1 ●広報紙や各種パンフレットなどによる啓発活動、学校教育や社会教育において環境学習の取組の充実を図ります。	（教育指導課） 市内各学校に対し、各種団体から送付される環境に係る通知等について、積極的に情報提供を行った。また、各教科及び総合的な学習の時間において、環境問題についてふれ、児童生徒への理解を深めた。	総合的な学習の時間は3年生から6年生の期間に行う授業である。理科や社会科の授業において環境問題に触れる場合、総合的な学習の時間を活用して理解を深める取組みを行っている。
	（学び支援課） 「田んぼの生き物観察会」を1回、「自然ふれあい体験教室」を1回、「自然観察会」を4回、「楽しいバードウォッチング」を2回開催した。	学び支援課の事業は一度きりではなく、季節ごとに経過を楽しみ学習できる工夫が凝らされている。自然とのふれあいを通じて、親子の絆づくりにも寄与している。 田んぼの学校は年4回開催し、参加者数延べ270名の参加があった。 自然観察会は年4回開催し、延べ87名の参加があった。 自然ふれあい体験教室は29名の参加があった。 楽しいバードウォッチングは年2回開催し、延べ39名の参加があった。
	（環境課） 7月に市民（子どもから大人）を対象に第1回環境学習会を開催し、11月には市内在住の小学生と保護者を対象にした第2回環境学習会「親子エコスクール」を開催した。	環境問題への関心度を向上させる企画であり、幅広い分野の「環境」にまつわる施設を検討して事業を開催している。 平成30年度は例年7月に行われている第1回環境学習会に加え、11月にも市内在住の小学生と保護者を対象にした第2回環境学習会「親子エコスクール」を開催し、合計42名（第1回26名、第2回16名）の参加があり、幅広い世代の市民に環境について考えるきっかけ作りを提供することができた。
1-2 ●児童館において、児童や親子向けの環境教育、体験学習などを実施します。	（子育て支援課） 東児童館事業「児童館まつり」では、小学生を対象にペットボトルのキャップを利用したおもちゃを作成した。また、「親子教室」では、新聞紙やガムテープ等の芯を利用し、乳幼児向けのおもちゃを作成した。	引き続き取り組む。 身近にあるペットボトルのキャップや廃材を利用した手作りおもちゃの作成などを通じて、限られた資源を有効利用する大切さを知ってもらうことを目的としている。対象は乳幼児を対象としている。
	（環境課） エコライフDAYを実施し、職員を含め小中学生を通じて家庭内でエコに心掛ける事業を夏、冬の2季で実施した。	県内ではエコライフDAYの当初の目的は達成されたものとして取り組みを縮小しており、実施は各自治体の任意となっている。 これまでは参加率によって数値を管理してきたが、学校をはじめとする公共施設、市主催の事業や白岡まつり等でチェックシートを配布し啓発に要した枚数で管理することとした。
1-3 ●白岡市環境保全活動団体登録制度により、市内の環境に関連する団体の把握に努め、環境に関する情報提供や施策等の実施に当たって積極的な参加を呼びかけます。	（環境課） ホームページで団体登録制度について周知を行っている。	制度の周知だけでは登録数の増加は見込めない。

環境基本計画で定めた「市民・事業者」に求められる行動	平成30年度における状況	環境課ヒアリング・評価
1-4 【市民に求められる行動】 ●市の環境保全に対する取組や、環境関連のイベントや行事には積極的に参加しましょう。 ●自然観察会や環境学習の機会に関心を持ち、参加しましょう。 ●家庭において、環境について話し合う機会を設け、一緒に考えましょう。 ●環境に関連する団体同士の交流に努めましょう。 【事業者に求められる行動】 ●事業所内においてごみ抑制に努めるとともに、従業員一人ひとりの意識啓発と市内の環境保全活動への参加を推進しましょう。 ●事業所の環境への取組について、地域へ周知を図るため、事業所の見学会などを検討しましょう。	市が2回開催した「環境学習会」に市民42名（第1回26名、第2回16名）の参加があった。 エコライフDAYを夏、冬の2季で実施した。	平成30年度は環境学習会を2回開催し、子どもから大人まで幅広い年代の市民に参加いただいた。 今後は、市民・事業所が関連する事業展開を検討する。

■日常生活や事業活動のあらゆる場面で環境に配慮！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」	平成30年度に実施したこと	環境課ヒアリング・評価
1-5 ●各種行事における環境配慮製品やパンフレットなどの配布を通じて、市民の意識啓発を推進します。	（環境課） 白岡駅、新白岡駅でたばこの吸殻等のポイ捨て防止・受動喫煙防止啓発運動を実施し、啓発品を配布した。	平成30年10月18日、19日に実施した。実施の際にはJT（日本たばこ産業株式会社）から啓発品の提供を受けて配布している。また、新白岡ニュータウン自治会、高岩1駒形区からの協力者の協力を得て、健康増進課と共同で実施した。
1-6 ●封筒、コピー用紙など、市・市民・事業者による再使用の促進を図ります。	（財政課） 庁舎において使用するコピー用紙については、環境配慮型製品の指標である総合評価値80ポイント以上であることとしている。また、使用済み封筒の再使用を実施している。	引き続き取り組む。また、併せて用紙使用枚数の削減に取り組む。
	（環境課） 封筒はグリーン製品のものを購入し、活用している。 ホームページや広報、ポスターなどで3Rの推進を周知・啓発した。	引き続き取り組む。 周知啓発は行っているが、効果を把握する機会がない。
1-7 ●フリーマーケットなど、不用品の交換活動の活性化を図ります。	（蓮田白岡衛生組合） 平成30年11月23日（祝・金）に開催された「わんぱく笑店街」において、自宅で使わなくなったおもちゃを持ち寄り、他の欲しいおもちゃと交換する「かえっこ」を行い、参加した子どもたちがリユース（再使用）の大切さを感じる機会を設けた。	引き続き取り組む。 わんぱく笑店街は商工会と子ども会が主催する事業であり、「かえっこ」の出店は商工会と連携している。

環境基本計画で定めた「市民・事業者」に求められる行動	平成30年度における状況	環境課ヒアリング・評価
1-8 【市民に求められる行動】 ●休日には公園や水辺などの自然散策に出かけ、自然を身近に感じる機会を持ちましょう。 ●自動車での外出には、不要なアイドリングをやめ、速度変化の少ない運転を心がけた、エコドライブに努めましょう。 ●買い物をするときには、不要なものは買わず、エコバッグを携帯し、過剰な包装は断りましょう。 【事業者に求められる行動】 ●周辺住民や市と連携し、生き物の観察や自然学習会などに参加し、地域の環境保全活動に努めましょう。 ●従業員一人ひとりが高い社会意識を持ち、環境整備活動や地域ボランティアには積極的に参加しましょう。	・工業団地内の環境改善として美化活動が年2回（5月、10月）に実施された。	自然環境へのふれあいは学び支援課における事業等で効果（事業参加者数）がある。市内のスーパー等においては、エコバッグによる買い物で料金が安くなる、もしくはレジ袋を購入するなど、環境に配慮した取組が伺える。

プロジェクトを推進するための数値目標

担当課	項目	基準 H22	H26	H27	H28	H29	H30	R元年（H31）	R2（H32）	目標 R2（H32）
環境課	環境学習会参加者数	22人（H21）	37人	31人	34人	36人	42人	ー	ー	100人
学び支援課	ペアーズ！しらおか参加者数	ー	400人	428人	416人	448人	478人	ー	ー	476人
環境課	１日エコライフDAYの参加率	14.05%（H21）	夏14.2%、冬14.3%	夏13.9%、冬14.8%	夏9%,冬4%	夏:11%、冬12%	夏:12%、冬12%	ー	ー	20%
環境課	ごみゼロ・クリーン運動参加者数	約9,200人	9,122人	9,414人	9,574人	9,502人	9,428人	ー	ー	10,000人

平成30年度市民エコ生活プロジェクト（総括）

◇市民エコ生活推進プロジェクト

日常における環境問題に目を向ける取組として、各課において環境啓発を目指した取組が実施されている。

学校教育においては、学年ごとにテーマを設け、広く環境に関心を寄せられる授業がなされている。 例）4年生→ゴミの分別、5年生→公害問題、6年生→地球温暖化

また、学び支援では、市役所前の田んぼ(個人所有）を利用した「田んぼの学校」、国立赤城青少年交流の家（群馬県前橋市）での自然ふれあい体験教室を実施した。

商工会と子ども会が主催する「わんぱく笑店街」において開催している「かえっこ」は蓮田白岡衛生組合と連携し開催している。

その他にも、たばこの吸殻等のポイ捨て防止・受動喫煙防止啓発運動を行政区（白岡ニュータウン自治会、高岩1駒形自治会）と連携し、白岡駅、新白岡駅においてポイ捨て防止運動に取り組んだ。